



ケンコーマヨネーズ株式会社【証券コード:2915】

2020年3月期 決算説明資料

公開日:2020年5月26日



ケンコーマヨネーズ株式会社



2020年3月期 決算概要について

2020年3月期 決算ハイライト(連結)



売上高 74,480百万円 (前年同期比 +0.7%)	経常利益 3,003百万円 (前年同期比 Δ 4.5%)	親会社株主に帰属する 当期純利益 2,058百万円 (前年同期比 Δ 10.4%)
--	--	---

■2020年3月期 決算

調味料・加工食品事業

- タマゴ加工品の販売苦戦
- 新型コロナウイルスによる影響



減収減益

総菜関連事業等

- 2018年に稼働を開始したダイエットクック白老新工場、
関東ダイエットクック神奈川工場の効果



増収増益

■2021年3月期 業績予想

新型コロナウイルス感染症拡大の動向、景気の先行き等が不透明

→現時点で当社グループの業績に与える影響について合理的な算定を行うことが困難であることから**未定**

2020年3月期 業績(連結)



連結損益計算書概要	2019年3月期	2020年3月期			2020年3月期 業績予想 (2019/5/15公表)
	金額	金額	前期比	予想比	金額
売上高	73,989	74,480	0.7%	△2.0%	76,000
売上総利益	18,210	17,844	△2.0%		-
(売上高総利益率)%	24.6%	24.0%			-
販売費及び一般管理費	15,094	14,944	△1.0%		-
営業利益	3,116	2,900	△6.9%	△12.1%	3,300
(売上高営業利益率)%	4.2%	3.9%			4.3%
経常利益	3,145	3,003	△4.5%	△9.0%	3,300
(売上高経常利益率)%	4.3%	4.0%			4.3%
税金等調整前当期純利益	3,781	3,104	△17.9%		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,296	2,058	△10.4%	△12.4%	2,350
(売上高当期純利益率)%	3.1%	2.8%			3.1%
1株当たり当期純利益	139円40銭	124円94銭			142円64銭

新型コロナウイルス感染症拡大による影響 <各業界への影響>



<各業界の動向(2020年2月後半以降)>

● 外食

2月後半から業界全体で客足減少が目立ち始め、特に東京都が週末の外出自粛を要請した3月下旬以降は一段と落ち込む。

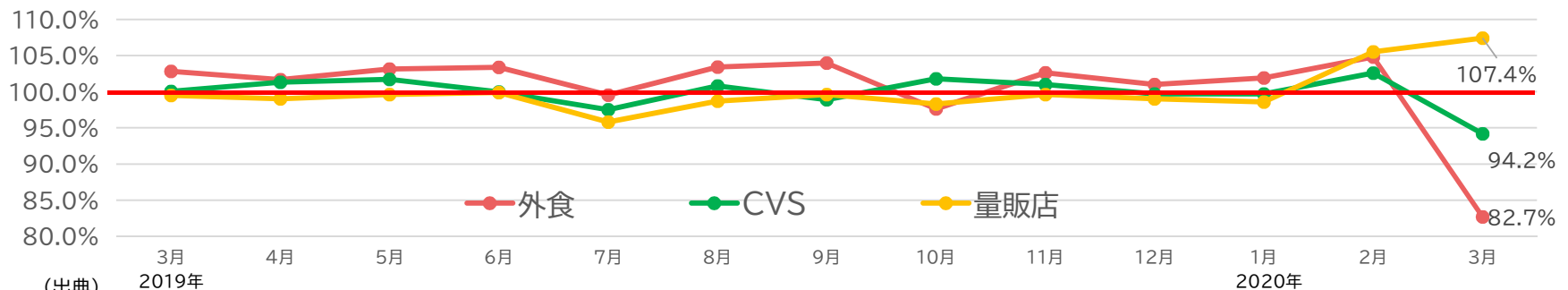
● CVS

外出自粛等の影響で来店客数が減少し、中食を含めた食品の売上は全般的に減少。

● 量販店

在宅時間の増加により家で食事をする需要が高まり、全体的に増加傾向。惣菜の売上は微減。

【参考データ:各業態売上月次動向(前年同月比)】



(出典) 2019年
 外食:日本フードサービス協会 JF外食産業市場動向調査
 CVS:日本フランチャイズチェーン協会 コンビニ統計データ
 量販店:全国スーパーマーケット協会 スーパーマーケット統計調査

新型コロナウイルス感染症拡大による影響<当社への影響>



■ 感染防止の主な取り組み

- ・最大限の在宅勤務の実施
- ・国内外への出張の原則禁止
- ・社内外の連絡や打合せ等は、可能な限り電話、メール、WEB会議等を活用して実施

■ 供給体制

生産工場や受注部門は、従業員、お客様、関係先様等の安全・安心に引き続き最大限の配慮をし、感染予防策を徹底した上で業務を継続

■ 原料調達

大きな影響は無し

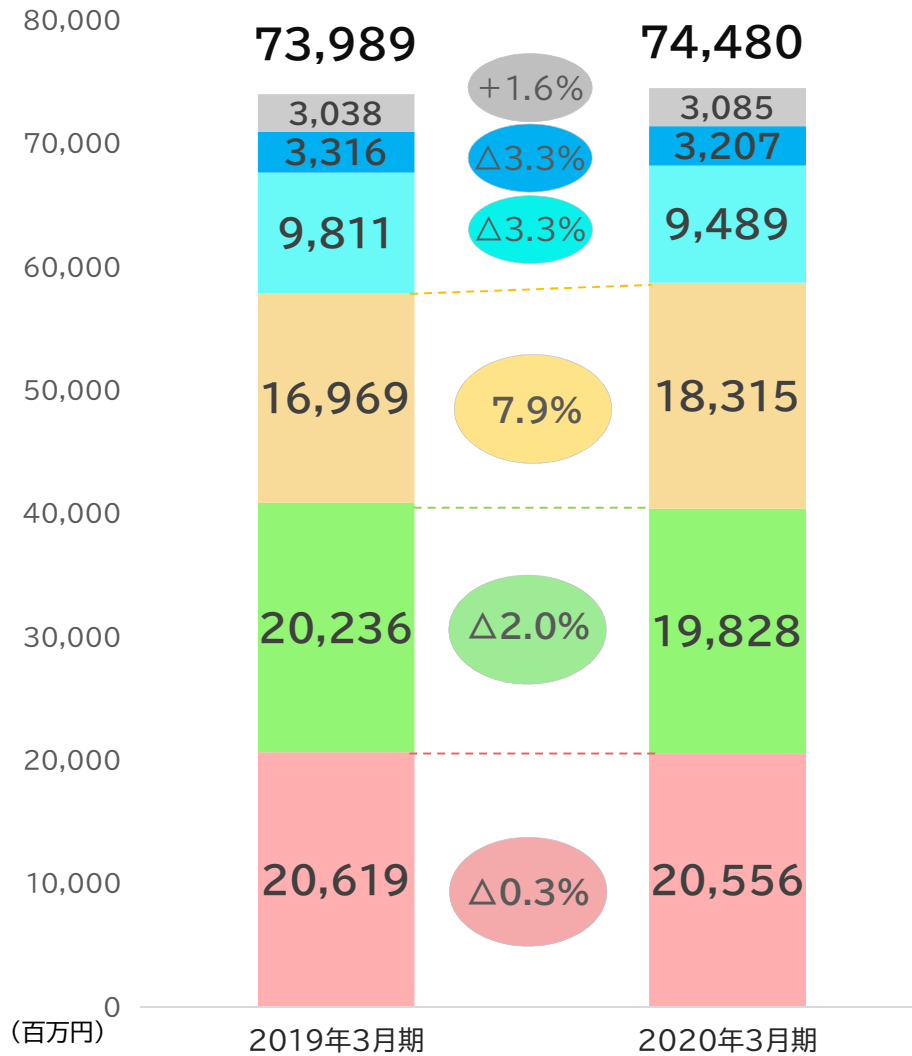
■ 販売関連

外出自粛や外食産業等における短時間営業、休業等により、売上高が減少

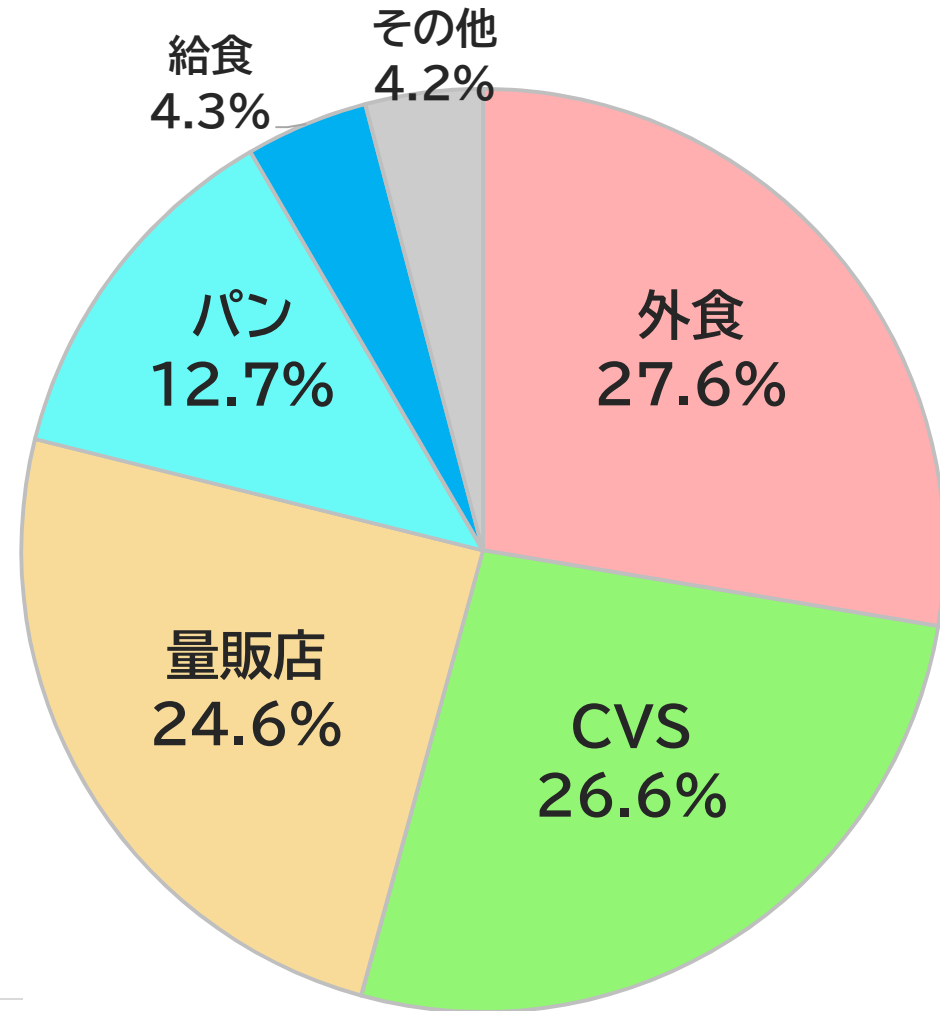
分野別売上高(連結)



2020年3月期 分野別売上高(連結)



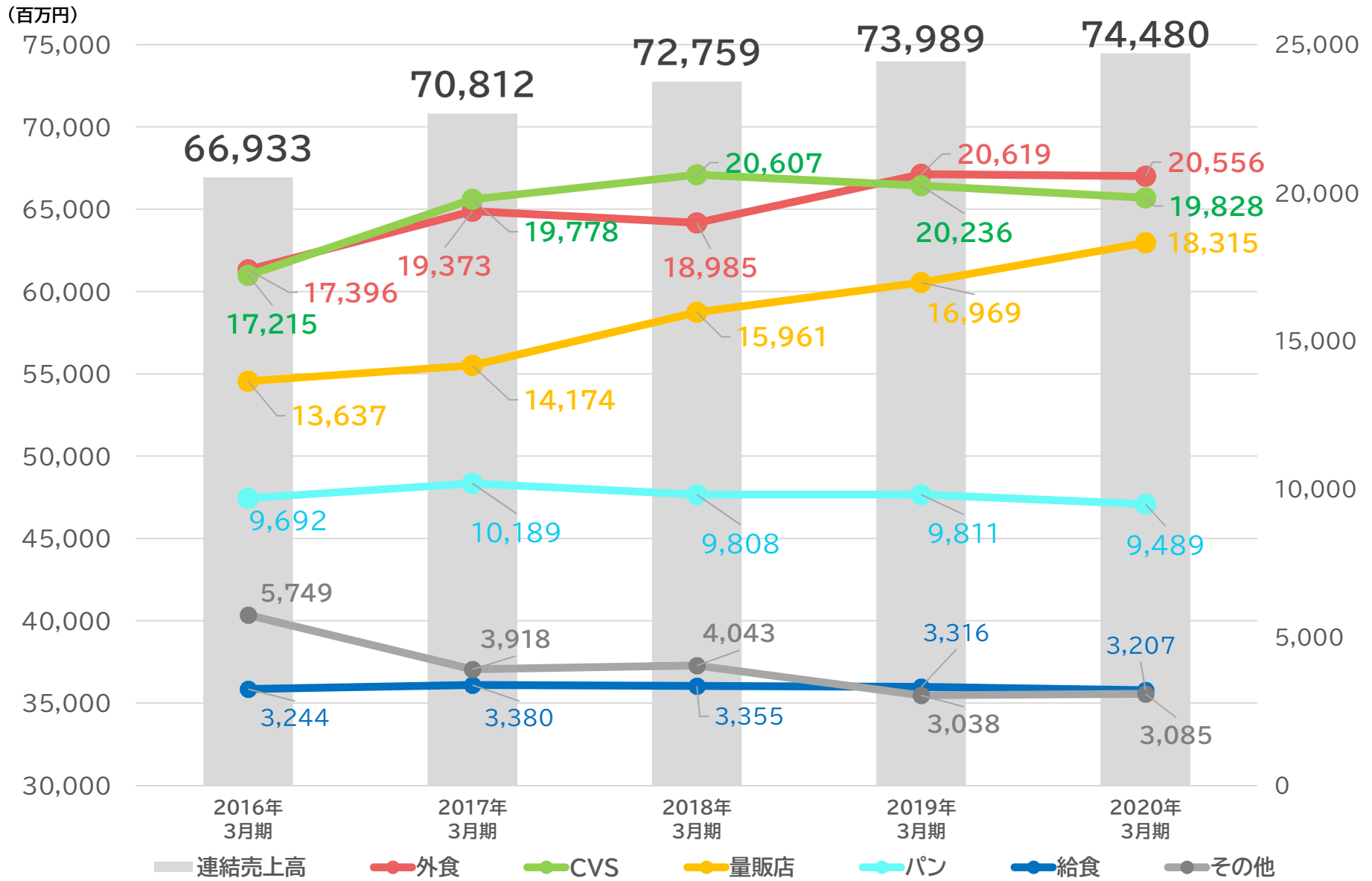
2020年3月期 分野別売上高構成比



■ 外食 ■ CVS ■ 量販店 ■ パン ■ 給食 ■ その他

©2020 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.

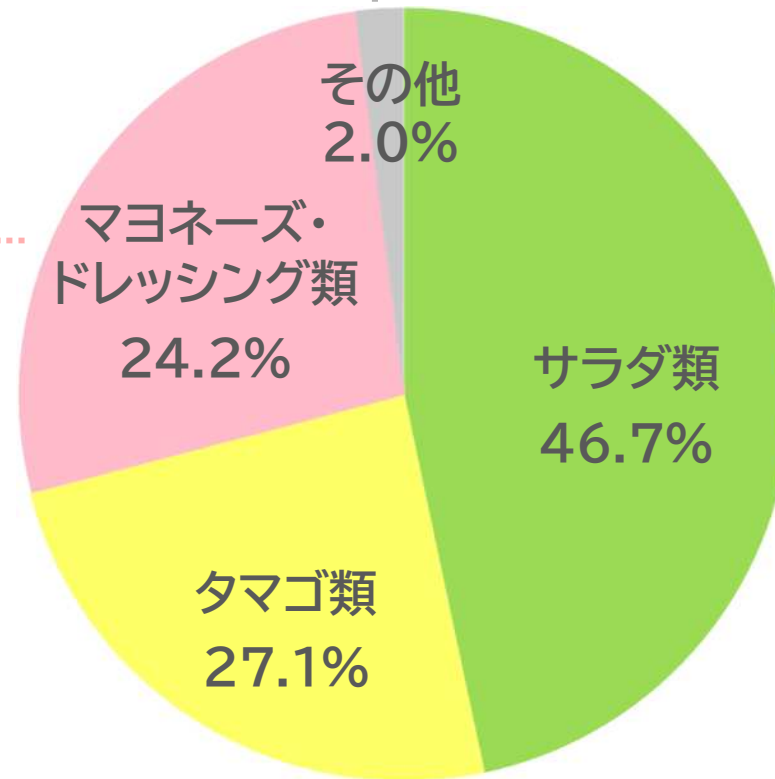
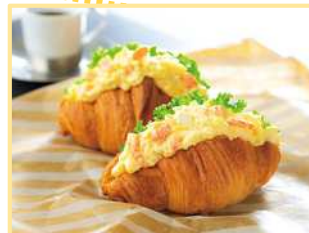
分野別売上高(連結)推移



商材別売上高構成比(連結)



【2020年3月期】

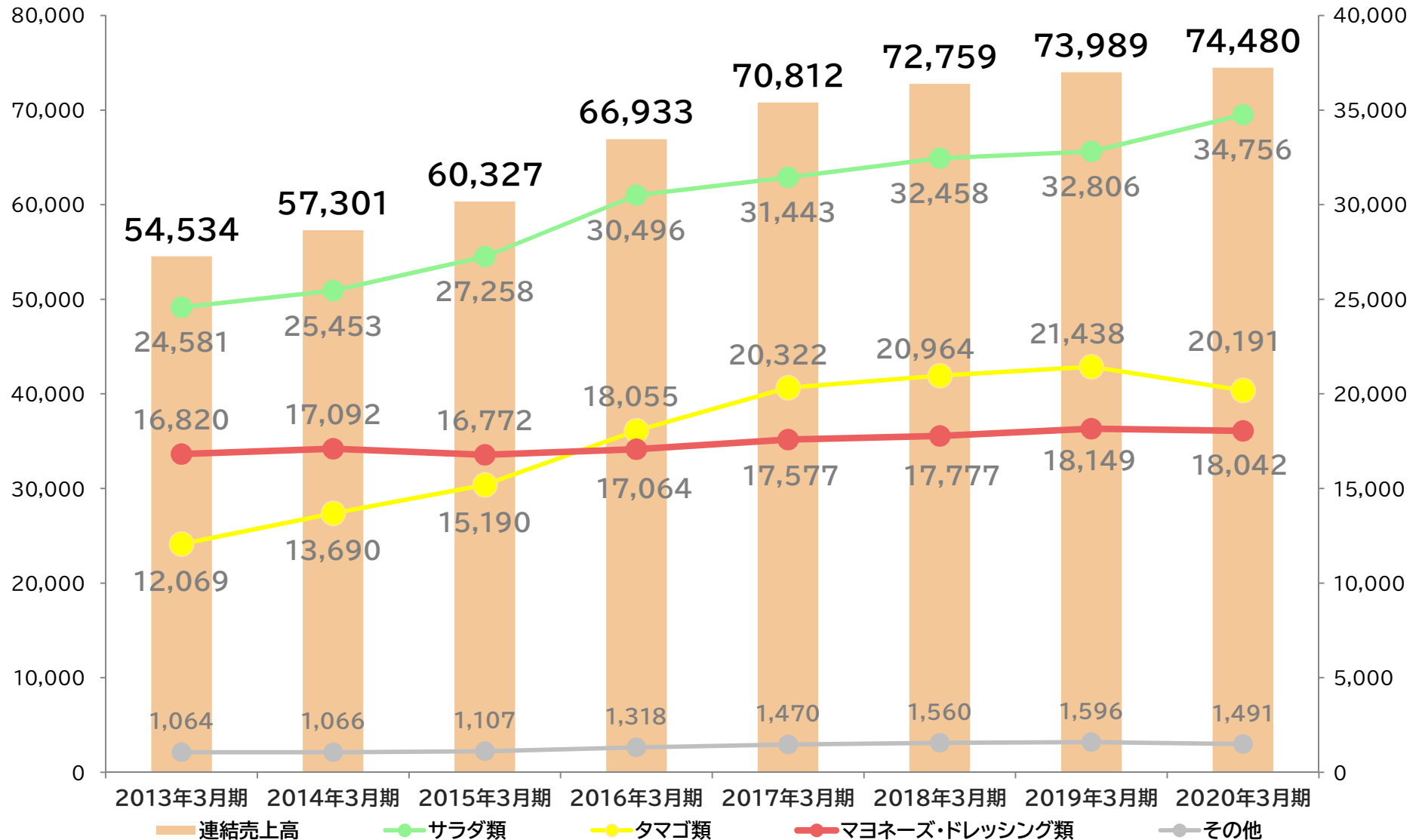


商材別売上高推移(連結)



連結売上高
単位:百万円

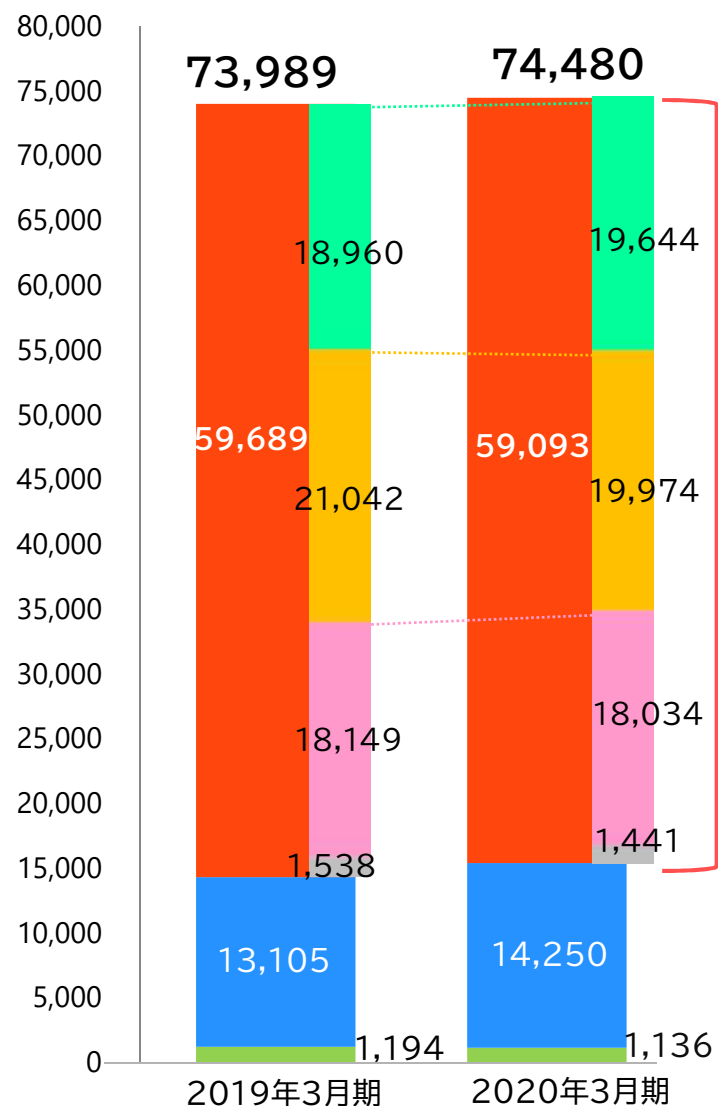
商材別売上高
単位:百万円



事業別売上高概況(連結)



単位:百万円



■調味料・加工食品事業 ■総菜関連事業等 □その他
 (■サラダ・総菜類 ■タマゴ加工品 ■マヨネーズ・ドレッシング類)

©2020 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.

調味料・加工食品事業

●売上高: $\Delta 1.0\%$

- 販売重量: $\Delta 0.3\%$ 販売単価: $\Delta 2.7$ 円/kg
- 主力のポテトサラダが伸長
- タマゴ加工品はCVS向け等の販売が苦戦。

■サラダ・総菜類 (売上高+3.6% 販売重量+3.6%)

■タマゴ加工品 (売上高 $\Delta 5.1\%$ 販売重量 $\Delta 5.1\%$)

■マヨネーズ・ドレッシング類 (売上高 $\Delta 0.6\%$ 販売重量+0.3%)

総菜関連事業等

●売上高: +8.7%

<フレッシュ総菜(日配サラダ、総菜)、グループ内生産受託>

- 2018年に稼働を開始したダイエットクック白老新工場、関東ダイエットクック神奈川工場の効果で増収
- 基盤商材であるポテトサラダの伸長

その他

●売上高: $\Delta 4.9\%$

<ショップ事業(Salad Cafe)および海外事業*>

- Salad Cafeは新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、外出自粛等の影響により売上減少

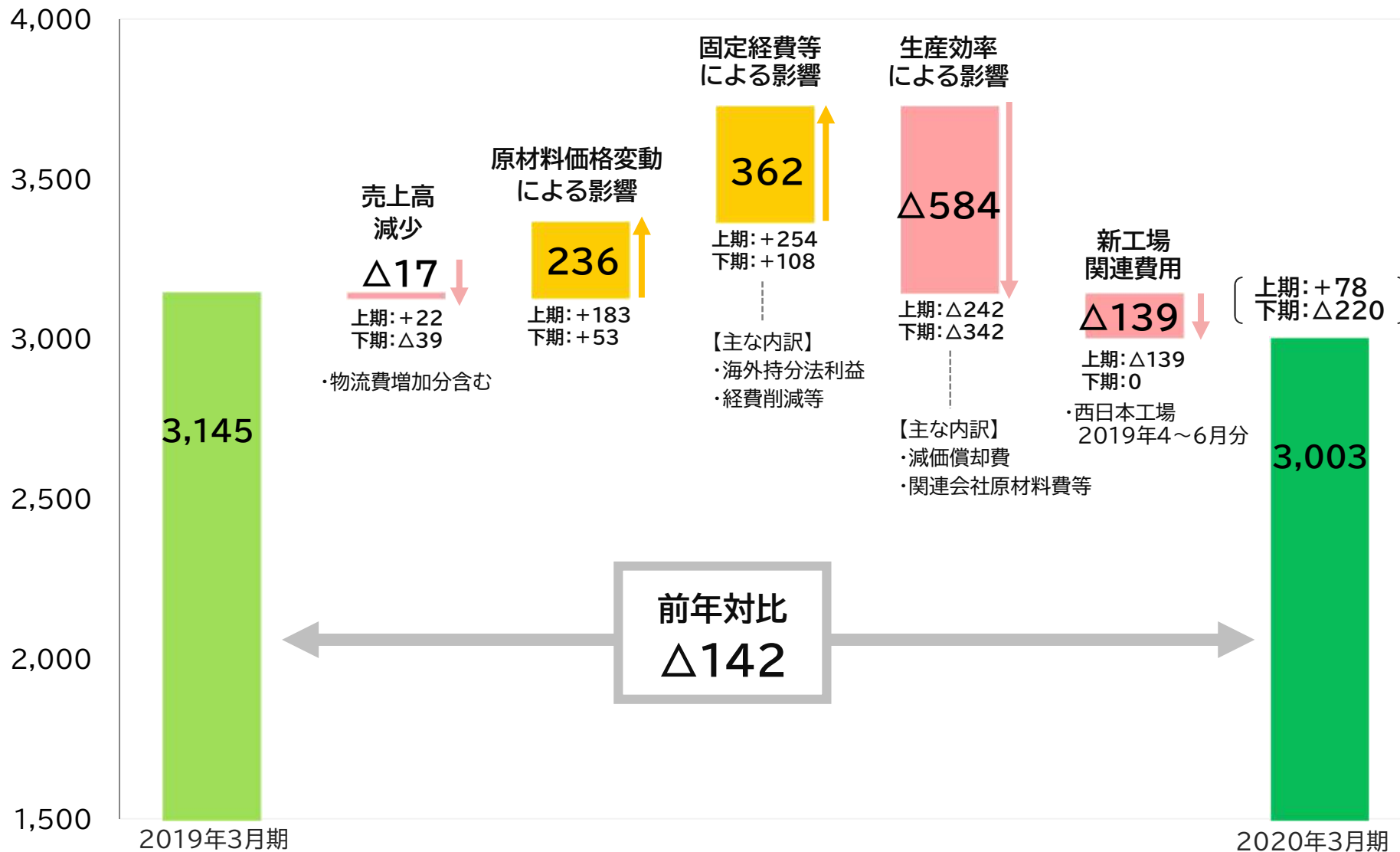
事業別売上高・セグメント利益(連結)



単位:百万円	2019年 3月期	2020年 3月期	前期比	
			増減	%
売上高	73,989	74,480	491	0.7%
調味料・加工食品事業	59,689	59,093	△596	△1.0%
総菜関連事業等	13,105	14,250	1,145	8.7%
その他	1,194	1,136	△58	△4.9%
セグメント利益	3,145	3,003	△142	△4.5%
調味料・加工食品事業	3,219	2,532	△687	△21.3%
総菜関連事業等	△83	396	479	-
その他	6	80	74	-
調整額	2	△6	△8	-

経常利益増減要因 (連結)

単位:百万円



貸借対照表の概要（連結）



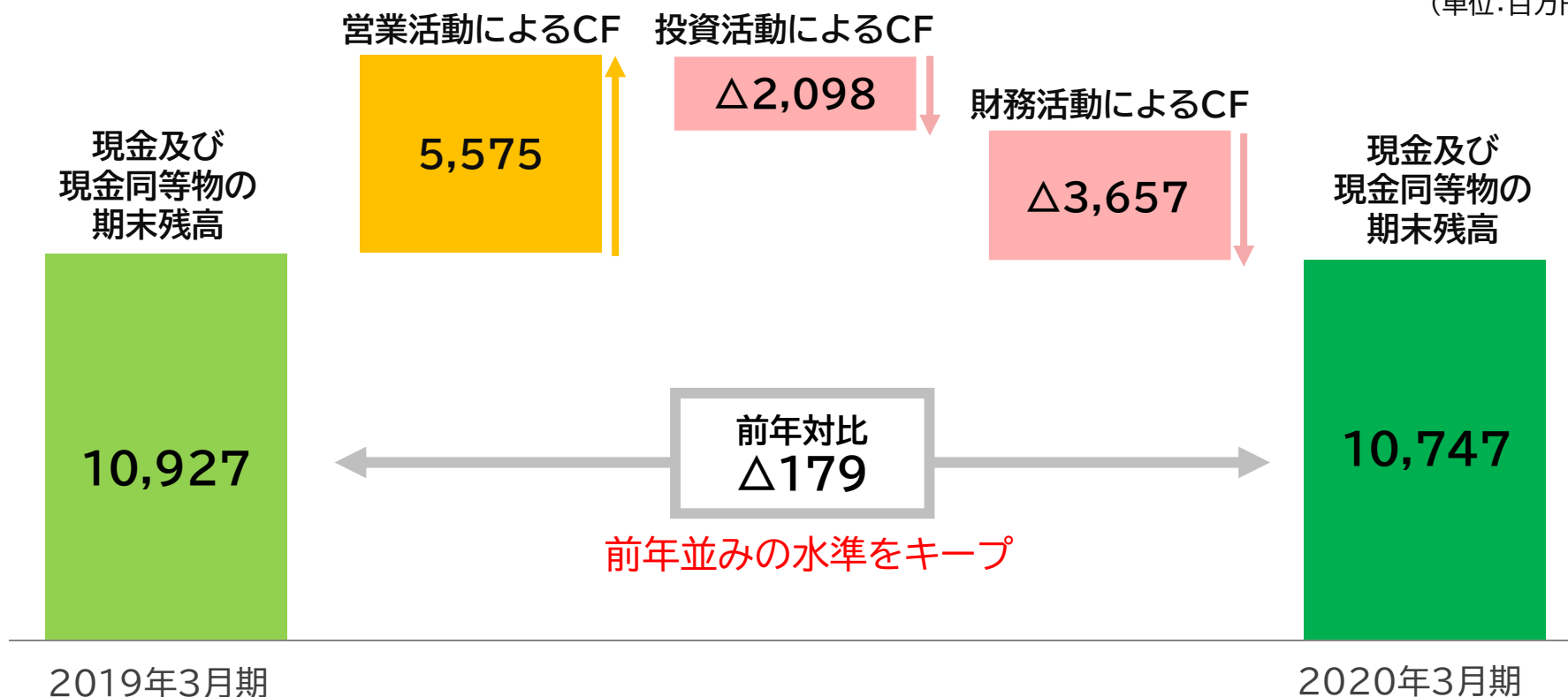
		2019年3月期	2020年3月期	増 減	前年度末比
* 長期未払金を含む		単位:百万円			
資 産	流動資産	27,945	25,617	△2,327	△8.3%
	固定資産	42,159	38,149	△4,010	△9.5%
資産合計		70,105	63,767	△6,337	△9.0%
負 債	うち有利子負債残高 *	19,020	15,633	△3,387	△17.8%
		37,204	29,664	△7,540	△20.3%
純資産		32,900	34,103	1,203	3.7%
負債・純資産合計		70,105	63,767	△6,338	△9.0%
1株当たり純資産		1,996円95銭	2,069円93銭	72円98銭	3.7%
自己資本比率		46.9%	53.5%	6.6%	-

- 新生産拠点の減価償却が進んだこと等により、総資産は6,337百万円減少
- 内部留保を着実に積み上げ、自己資本比率は53.5%まで6.6%上昇

キャッシュフローの概要（連結）



(単位:百万円)



- 営業CF：当期純利益及び減価償却費等により5,575百万円の収入
- 投資CF：生産拠点構想に基づく固定資産取得等により2,098百万円の支出
- 財務CF：借入金の返済及び配当等により3,657百万円の支出

2021年3月期 見通しについて

2021年3月期 業績予想



■2021年3月期 業績予想について

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の動向、景気の先行き等が不透明であり、現時点で当社グループの業績に与える影響について合理的な算定を行うことが困難であることから未定とする

▶ 今後、業績予想の発表が可能となり次第、速やかに公表

■中期経営計画「KENKO Value Action」最終目標について

- ・前期までの状況を鑑み、2018年5月に公表しました中期経営計画の最終目標（2020年度 連結売上高850億円、連結経常利益46億円）の達成は厳しい状況

配当・株主還元



基本政策

- ・安定的な配当を維持、継続
- ・配当性向は20%を目標
- ・業績に応じて配当水準を高める

2021年3月期 配当予想

配当及び配当性向予想は現時点で合理的な算出が困難な為**未定**

